

登録コード	UAL13600	開講年度	2026				
授業題目	発展民事法学					担当教員	弘中 章
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・法学, 2 4 UAカリ・総人社・法学, 2 3 UAカリ・総人社・法学						
	【法学】法学分野の高度な知識を身につけ、法を解釈適用できる能力を有する。					民法の知識を踏まえ、その考え方を雇用の場面に応用・展開する能力を身につける。	
	【法学】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析し、法的評価ができる能力を有する。法律的な考え方を身につけており、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。					判例研究という質的分析方法を実践することで、地域・社会・経済の抱える問題が裁判においてどのように現れるのかを認識する方法を身につける。さらに、その問題状況を民事法という観点から整理・分析する方法を身につける。	
(2)授業の概要	・「発展民事法学」という授業科目ではありますが、担当教員の研究分野が労働法であることから、「労働法」を素材として民事法の考え方を深められる授業を目指します。 ・教員によるレクチャーと参加者による判例報告を組み合わせた授業形態をとるため、演習に近い講義になります。このスタイルを通じて、受講生が実際の判決文を読む訓練の機会とし、修士論文執筆に向けた研究に生かしていただくことも狙いとしています。 ・オンラインによる参加も可能とする予定です。具体的には、教員が教室でレクチャーをしたり、受講生が報告している場面を配信する形態を想定しています。						
(3)授業計画	第1回：イントロダクション（労働法とは／労働法の全体像） 第2回：「労働者性」の概念 第3回：労働契約の始まり 第4回：労働契約の終了（1） 第5回：労働契約の終了（2） 第5回：労働条件（1）（賃金に関する諸問題） 第6回：労働条件（2）（労働時間に関する諸問題） 第7回：労働条件（3）（休暇・休業に関する諸問題） 第8回：労働条件（4）（労働者の安全・健康に関する諸問題） 第9回：労働条件の変更 第10回：非正規雇用 第11回：雇用平等とハラスメント 第12回：労働紛争解決のための諸手続 第13回：判例検討（1） 第14回：判例検討（2） 期末試験：無し 受講生の人数等により時間配分と内容を一部変更する可能性があります。						
(4)成績評価の方法	・各回の議論への参加状況（40％）と判例報告（60％）						
(5)成績評価の基準	・「判例検討」で担当する事案に関して、原審から判決文にあたり、事実関係を正確に把握していることを前提として、原告が何を求め、何が争点となったのかを正確に理解し、裁判所がどのような判断を行ったのかを一通り説明できれば、「水準」にあり（可）、正確な理解が示されていれば「やや上」にある（良）、その他の裁判例や学説の状況などについて判例評釈など複数の文献にあたって調査を行い、課題となっている事例の位置づけを分析するなどできれば「かなり上」にあり（優）、さらに全体として分析・資料作成が綿密になされていれば「卓越」している（秀）。 ・各回の議論への参加状況は「平常点」として考慮しますので、労働法の基礎的な知識や民事法の考え方の応用という観点を意識しながら発言していただければ40％分を獲得することは容易です。						
(6)事前事後学習の内容	・第12回までは各回に資料を準備しますので、授業前に目を通しておいください。 ・第13・14回の「判例検討」では、報告の担当を割り振ります。報告者はレジュメを準備してください。報告者以外の受講生は素材となる判例・裁判例を事前に検討し、議論に積極的に参加してください。						
(7)履修上の注意	・特に前半部分では、民法における「契約」や「損害賠償責任」の考え方を「労働」「雇用」という場面に応用していくアプローチをしばしばとるため、民法の考え方を習得していることが履修の前提となります。						
(8)質問、相談への対応	・質問は、できるだけ、授業中・授業終了直後にさせていただきたいのですが、必要があれば面談等の機会を持ちますので、お声がけください。担当教員の連絡先は、hironaka@shinshu-u.ac.jpです。						
【教科書】	特に指定しませんが、村中孝史・荒木尚志編『別冊ジュリスト 労働判例百選【第10版】』（有斐閣,2022年,2400円（税別））から素材を選択することが多くなります。						
【参考書】	適宜、案内します。なお、受講生から関心や目的にあわせて文献を紹介しますので、ご相談ください。						